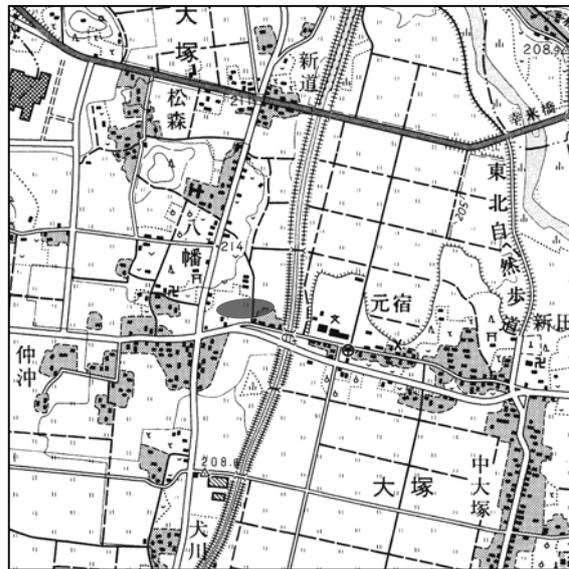


やわたいち
八幡一遺跡

遺跡番号 382-194
 調査次数 第1次
 所在地 山形県東置賜郡川西町大字西大塚字八幡一
 北緯・東経 38度02分40秒・140度03分54秒
 調査委託者 国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
 起因事業 一般国道113号梨郷道路事業
 調査面積 9,900㎡
 受託期間 平成26年4月1日～平成27年3月31日
 現地調査 平成26年5月20日～12月19日
 調査担当者 水戸部秀樹（現場責任者）・市川光紀
 高柳俊輔・渡邊安奈
 調査協力 川西町教育委員会・置賜教育事務所
 遺跡種別 集落跡
 時代 古墳時代・奈良時代・平安時代・中世・近世
 遺構 井戸・土坑・柱穴・木棺墓・旧河道
 遺物 土師器・須恵器・陶磁器・石器・石製品・木製品・古銭（文化財認定箱数：120箱）



遺跡位置図（1：50,000）

調査の概要

八幡一遺跡は、最上川が形成した河岸段丘の北側に位置している。遺跡のすぐ東側を流れる^{もとじゅく}元宿川は、まもなく最上川へと合流する。昨年度調査が行われた元宿北遺跡は、元宿川の対岸に位置している。遺跡の主な時代は、平安時代や中世であるが、出土した遺物には縄文時代から近世までのものが含まれていた。また調査区内からは近現代の用水路跡も検出されており、耕地整理前の水田区画が確認された。

遺構と遺物

南北約60m、東西約180mを測る調査区の中央部で、東西に伸びる旧河道が検出された。かつては水が流れており、東側の元宿川へと合流したのであろうが、やがて水の流れは途絶えてしまい湿地に変わったようである。内部からは縄文時代・弥生時代・古墳時代・古代・中世の遺物が出土しているが、この湿地内で使用されたものではなく、調査区の南北にある微高地上から廃棄されたものと考えられる。この旧河道の北岸から大変興味深い遺物が出土しており、調査区の北側に未発見の重要な遺跡が存在していることが予想された。

井戸は4基確認されており、井戸3・4は素掘り、井戸1・2は井戸枠を有するものであった。井戸1（写真2）の掘方は、直径1.4m、深さ1mほどで、内部から木製の井戸枠が検出された。井戸枠の四辺に並べられた縦板は、その内側に設置された横棧によって、倒れないように固定される。横棧は、井戸枠内部の四隅に立てられた柱にホゾを使ってはめ込まれており、その接合部には木製の楔が打ち込まれている。井戸枠の内部からは、曲物3点、砥石1点、陶器、土師器などが出土した。

井戸2（写真3・4）からも同様に曲物1点、曲物底板1点、そして木槌1点が出土した。井戸の掘り方は大きく直径2.5mを測る。本来は井戸枠が設置されていたと考えられるが、すでに抜き取られている状態であった。

素掘りの井戸3（写真5）の深さは3.3m、井戸4（写真6）が2.3mで、いずれも平面形は円形である。井戸3からは、9世紀頃の須恵器の蓋が出土している。それぞれの井戸の周囲には、複数の円筒形の土坑が検出され、埋土の土層を観察すると短期間で埋め戻されていることが分かった。地下水の水脈を求めて試し掘りを行っていたのだろうか。



写真1 調査区全景（合成写真）



写真2 井戸1の井戸枠（北から）



写真3 井戸2の断面（北から）



写真4 井戸2曲物出土状況（南から）



写真5 井戸3完掘状況（東から）



写真6 井戸4完掘状況（西から）



写真7 木棺墓（南東から）



写真8 刻書土器出土状況



写真9 滑石製石鍋